

基準一次エネルギー消費量を達成する取り組み(例)

1. I a 地域の場合

表 1. 特定住宅イメージ
I a 地域 (基準値:124.9 GJ/年)

	断熱性能	暖房 [GJ/年]	冷房 [GJ/年]	給湯 [GJ/年]	照明 [GJ/年]	換気 [GJ/年]	エネルギー消費量 合計[GJ/年]		達成率
							上段:基準値	下段:特定住宅消費量	
A	等級 4	石油熱源パネル ラジエーター	—	石油瞬間式 (従来型)給湯	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第三種	126.1	141.5	89%
							93.9	30.5	
B	等級 4	石油熱源パネル ラジエーター	—	石油潜熱回収	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第三種	126.1	135.6	93%
							93.9	24.6	
C	等級 4	石油熱源パネル ラジエーター	—	石油潜熱回収 (節湯機器あり)	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第三種	126.1	131.2	96%
							93.9	20.2	
D	等級 4	石油熱源パネル ラジエーター	—	石油潜熱回収 (節湯機器あり)	非居室のみ設置 (白熱灯なし)	ダクト式 第三種	126.1	128.7	98%
							93.9	20.2	
E	等級 4	石油熱源パネル ラジエーター	—	太陽熱+ 石油潜熱回収 (節湯機器あり)	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第三種	126.1	126.0	100%
							93.9	15	
F	等級 4	石油熱源パネル ラジエーター	—	太陽熱+ 石油潜熱回収 (節湯機器あり)	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第三種 (DCモーター採用)	126.1	124.6	101%
							93.9	15	
G	別表に よる	石油熱源パネル ラジエーター	—	石油瞬間式 (従来型)給湯	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第三種	126.1	126.9	99%
							79.3	30.5	
H	別表に よる	石油熱源パネル ラジエーター	—	石油潜熱回収	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第三種	126.1	121.0	104%
							79.3	24.6	
I	等級 4	石油熱源パネル ラジエーター	—	石油瞬間式 (従来型) 給湯器	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第一種 熱交換型	129.8	119.0	109%
							67.3	30.5	
J	別表に よる	石油熱源パネル ラジエーター	—	石油瞬間式 (従来型) 給湯器	新築時に機器 を設置しない場	ダクト式 第一種 熱交換型	129.8	104.1	125%
							52.4	30.5	

- 断熱性能が等級 4 の場合、太陽熱温水器(補助熱源は高効率型)を採用することで基準相当となる。
- 断熱性能を向上させる(熱損失係数 $Q=1.4\text{W}/\text{Km}^2$ またはこれらと同等性能を有する冬季日射利用住宅の場合)ことで基準相当となる。
- 断熱性能が等級 4 以上の場合は、熱交換型換気システムを採用することで基準相当となる。

2. IVb 地域の場合

1) 全館連続運転の場合

表 2. 特定住宅イメージ
IVb地域 (基準値:89.4 GJ/年)

	断熱性能	暖房 [GJ/年]	冷房 [GJ/年]	給湯 [GJ/年]	照明 [GJ/年]	換気 [GJ/年]	エネルギー消費量 合計[GJ/年] 上段:基準値 下段:特定住宅消費量	達成率
A	等級 4	セントラル システム	セントラル システム	ガス潜熱回収型	新築時に機器を 設置しない場合	第三種 壁付け ファン	89.4	92%
		38.5	24.3	18.6	11.6	4.1	97.1	
B	等級 4	セントラル システム	セントラル システム	ガス潜熱回収型 (節湯機器あり)	新築時に機器を 設置しない場合	第三種 壁付け ファン	89.4	95%
		38.5	24.3	15.3	11.6	4.1	93.8	
C	等級 4	セントラル システム	セントラル システム	太陽熱+ ガス潜熱回収型 (節湯機器あり)	新築時に機器を 設置しない場合	第三種 壁付け ファン	89.4	104%
		38.5	24.3	7.6	11.6	4.1	86.1	
D	別表に よる	セントラル システム	セントラル システム	ガス瞬間式 (従来型)給湯	新築時に機器を 設置しない場合	第三種 壁付け ファン	89.4	102%
		23.5	26.2	22.2	11.6	4.1	87.6	
E	等級 4	セントラル システム	セントラル システム	ガス潜熱回収型	新築時に機器を 設置しない場合	ダクト式 第一種 熱交換型	94.3	96%
		33.7	24.3	18.6	11.6	9.6	97.8	
F	等級 4	セントラル システム	セントラル システム	ガス潜熱回収型 (節湯機器あり)	新築時に機器を 設置しない場合	ダクト式 第一種 熱交換型	94.3	100%
		33.7	24.3	15.3	11.6	9.6	94.5	
G	別表に よる	セントラル システム	セントラル システム	ガス瞬間式 (従来型)給湯	新築時に機器を 設置しない場合	ダクト式 第一種 熱交換型	94.3	110%
		15.8	26.2	22.2	11.6	9.6	85.4	

- 断熱性能が等級 4 の場合、太陽熱温水器(補助熱源は高効率型)を採用することで基準相当となる。
- 断熱性能が等級 4 の場合、高効率給湯器(節湯機器あり)及び熱交換型換気システムを採用することで基準相当となる。
- 断熱性能を向上させる(熱損失係数 $Q=1.9W/Km^2$ またはこれらと同等性能を有する冬季日射利用住宅の場合)ことで基準相当となる。
- 断熱性能を向上させ(熱損失係数 $Q=1.9W/Km^2$ またはこれらと同等性能を有する冬季日射利用住宅の場合)、さらに熱交換型換気システムを併用することで基準相当となる。

2) 部分間欠運転の場合

表 3. 特定住宅イメージ
IVb 地域 (基準値:46.0 GJ/年)

断熱性能	暖房 [GJ/年]	冷房 [GJ/年]	給湯 [GJ/年]	照明 [GJ/年]	換気 [GJ/年]	エネルギー消費量	達成率
						合計[GJ/年] 上段:基準値 下段:特定住宅消費量	
A 等級 4	ルーム エアコンディショナー	ルーム エアコンディショナー	ガス潜熱回収型	新築時に機器を 設置しない場合	第三種 壁付け ファン	46.0	94%
	10.4	4.2	18.6	11.6	4.1	48.9	
B 等級 4	ルーム エアコンディショナー	ルーム エアコンディショナー	ガス潜熱回収型 (節湯機器あり)	新築時に機器を 設置しない場合	第三種 壁付け ファン	46.0	101%
	10.4	4.2	15.3	11.6	4.1	45.6	
C 別表に よる	ルーム エアコンディショナー	ルーム エアコンディショナー	ガス瞬間式 (従来型) 給湯器	新築時に機器を 設置しない場合	第三種 壁付け ファン	46.0	94%
	6.3	4.7	22.2	11.6	4.1	48.9	
D 別表に よる	ルーム エアコンディショナー	ルーム エアコンディショナー	ガス潜熱回収型	新築時に機器を 設置しない場合	第三種 壁付け ファン	46.0	102%
	6.3	4.7	18.6	11.6	4.1	45.3	
E 別表に よる	ルーム エアコンディショナー	ルーム エアコンディショナー	ガス瞬間式 (従来型) 給湯器	新築時に機器を 設置しない場合	ダクト式 第三種	52.6	105%
	6.3	4.7	22.2	11.6	5.5	50.3	
F 別表に よる	ルーム エアコンディショナー	ルーム エアコンディショナー	ガス瞬間式 (従来型) 給湯器	新築時に機器を 設置しない場合	ダクト式 第三種	47.2	94%
	6.3	4.7	22.2	11.6	5.5	50.3	
G 別表に よる	ルーム エアコンディショナー	ルーム エアコンディショナー	ガス瞬間式 (従来型) 給湯器	新築時に機器を 設置しない場合	ダクト式 第三種 (DCモーター採用)	47.2	97%
	6.3	4.7	22.2	11.6	4.1	48.9	
H 別表に よる	ルーム エアコンディショナー	ルーム エアコンディショナー	ガス潜熱回収型	新築時に機器を 設置しない場合	ダクト式 第三種	47.2	101%
	6.3	4.7	18.6	11.6	5.5	46.7	

- 断熱性能が等級 4 の場合は、高効率給湯器(節湯機器あり)を採用することで基準相当となる。
- 断熱性能を向上させ(熱損失係数 $Q=1.9W/Km^2$ またはこれらと同等性能を有する冬季日射利用住宅の場合)、高効率給湯器を採用することで基準相当となる。

機器効率：家電トップランナー対象機器である石油熱源機、FF式暖房機については、目標年度を迎えた機器効率の基準値のうち、直近の値を参考とする。

ルームエアコンディショナーについては、設置する場合の仕様は、家電トップランナー基準における2010年度目標基準値を参考とし、ルームエアコンディショナー以外の機器を設置する場合及び暖冷房設備を設置しない場合の仕様は、目標年度を迎えた機器効率の基準値のうち、直近の値を参考とする。（例えば、4kW以下の場合には、2010年度の目標基準値ではなく、2004冷凍年度における目標基準値を参考とする）。

セントラルエアコンについては、最新の情報（統計、メーカーへのヒアリング、カタログ値等）より、容量ごとの効率平均値を用いる。

別表 1. 各断熱性能の熱損失係数・夏季日射取得係数

地域区分		断熱性能
熱損失係数 Q 【W/K・㎡】 または これらと同等性能を有する 冬季日射利用住宅	I a	1.4
	I b	
	II	1.4
	III	1.9
	IVa	1.9
	IVb	
	V	1.9
	VI	3.7
夏季日射取得係数 μ	I a	0.08
	I b	
	II	0.08
	III	0.07
	IVa	0.07
	IVb	
	V	0.07
	VI	0.04